

A TALKING KNOWLEDGE OF ROTARY

ロータリーの心得
ガイ・ガンデッカー

田中 毅 訳

A TALKING KNOWLEDGE OF ROTARY

ロータリーの心得

ロータリーの教科書として提供するために編集され、
ロータリー誌1916年4月号、5月号、6月号、7月号
として出版された原著に基づいて、
1915-16 年度国際ロータリークラブ連合会、理論・教育委
員会によって作成された4冊のパンフレット
によって構成されている。

委員長ガイ・ガンデッカー

フィラデルフィア・ロータリークラブ
1916年ロータリー国際大会において採択及び承認
発行国際ロータリークラブ連合会本部
シカゴ市ミシガン通り910

2680 地区パスト・ガバナー

田中 毅 翻訳

ロータリーの心得 ー目次ー

ロータリー精神

5

教育活動としてのロータリー・プログラム

7

確固たる信念に基づく委員会報告書

ロータリークラブの意図と目的

10

個々の会員の向上ー個人的に

10

会員の事業の理念と現実の双方における向上

11

会員の属する業界全体の向上

13

会員の属する家庭、町、州、国、社会全体の向上

14

ロータリアンがなすべき仕事	18
出席	18
ロータリアンの活動	20
個人的な活動	20
クラブの活動	21
業界における活動	22
市民および慈善的奉仕活動	23
利益	23
ロータリークラブの会員を	
真のロータリアンに進化させる	24
ロータリークラブの各会員	
に対する義務と責任	31

昼食例会	35
夕刻の例会	41
自分の業界と社会に対する ロータリアンの義務と責任	44
自分の業界に対する会員の義務と責任	45
会員の社会に対する義務と責任	51
ロータリー宣言	57
全分野の職業人のためのロータリー倫理訓	59
要約	64

電子文庫版「ロータリーの心得」について	69
義務	67
特典	66
綱領	65
ロータリークラブ	65

ロータリー精神

真紅の薔薇は人生に活力を与え、

固く握り締めた手は暖かさと真実を伝える。

心臓は奉仕をするための旋律を刻み、

行動と挑戦のために力強く脈打つ。

正直な笑いはこだまとなつて響き渡り、正直な活動は喜びと化す。
後に続く者のために、豊かな大地を残そう。

これらすべての事柄は、ロータリーの目論見。

友人に奉仕することこそ、人間の真摯な努力。

利己の心を抑え、利他の心を育む。

語りかけはやさしく、文章は親切心に満ち溢れる。

真実の道からはいささかも外れることなく、

奉仕に邁進し、金銭を求めず。

隣人といさかいを起こさず、友を裏切らず。

これはすべてロータリーの努力、ロータリーの望むところ。

他人のために道を切り開き、最高の人生を作りだす。

「我が兄弟」という言葉こそ、最も重要な意味を持つ。

真摯な努力を褒め称えるため、賞賛の言葉を投げかけよう。

友人の姿が見えなくなるまで、優しい言葉をかけ続けよう。

これがロータリーの問題、これがロータリーの夢。

神よ、身元に近づくまで、この営みを続けさせ給え。

エドガー A. ゲスト

デトロイト・ロータリークラブ

教育活動としてのロータリー・プログラム

教育委員会によって作成された以下の勧告に基づいて、1917年ロータリー国際大会において認可された。

確固たる信念に基づく委員会報告書

もしロータリーに対する理解がロータリアンの集団の間でほぼ同じように形成されているとすれば、それは個々のクラブの役員の意図的かつ同情的な協力があつたからに他ならない。(拍手。)

クラブ会長と幹事の支援を受けて、今年確定したこのプログラムの助けを借りて、極めて容易に十分な進展が得られた。そのような支援がなければ、こういったプログラムはゆっくりとしか進まないことは確かである。

ロータリーに奉仕することを望んでいるクラブ理事は、それぞれのロータリーの最初の例会は別としても、上手に準備することはほとんど不可能であつた。「ロータリーの心得」という国際的な小冊子や標準ロータリークラブ定款のコピーは、最新の国際大会の議事録のように、クラブのあらゆる会合において、委員長の手元に置かれるべきである。

クラブ役員はクラブの議事に際して、「ロータリアン誌」を読んで、その記事に関する議論を奨励するような素晴らしい例を、自らのクラブに取り入れるかもしれない。その結果、雑誌を読む人が、いろいろな面から変わった興味をかきたてられるのではなく、ロータリーにおける他の人たちに対する自らの有用性を増加させることができる。

委員会が判断したこれらの推薦以外にも、ロータリーの解釈上、我々会員のすばらしい組織には際立った四つのニーズがある。

1. 国際大会に出席するロータリアンは、国際大会において明らかに

されているように、ロータリーに対して一定の理解を示すという特定の責任を受諾したものとみなされる。(拍手。)

2. クラブのにおいて、交代に卓話をしなければならぬ。

3. 国際ロータリークラブ連合会のすべてのクラブは、ロータリーの精神を要としたクラブ運営を続ける目的のために、毎年二回、国際ロータリークラブ連合会の代表の訪問を受けなければならない。

4. すべてのクラブは4回の例会のうち少なくとも一回は、ロータリーに関する討論やこれに類するテーマの興味深い内容に充当すべきであり、それぞれのクラブはロータリーにおいて特別の魅力を持った催しのプログラムを実施する技術を提供しなければならない。
(長い拍手)

1916年ロータリークラブ連合会国際協議会より

ロータリークラブの意図と目的

ロータリークラブは異なった事業または専門職種から選ばれた者によって構成され、次の事柄を達成するために組織化されている。

- 第1 個々の会員の向上。
- 第2 会員の事業の野年と現実の双方における向上。
- 第3 会員の属する業界全体の向上。
- 第4 会員の属する家庭、町、州、国、社会全体の向上。

個々の会員の向上 — 個人的に

ロータリーは会員のために次のような活動を提供する。

- (1) 事業上の経験を交換して、視野を広げる。
- (2) 自分の考えの狭さを自覚させて、心に刺激を与える。
- (3) 他人のために奉仕する心を喚起する。
- (4) 最大の可能性を得るために支援する。
- (5) 人間の指導者を作り上げる。

会員の事業の理念と現実の双方における向上

現実面から見れば、ロータリー活動は会員間の関係を友情溢れる親密なものにすると共に、取引を増やす機会を与える。しかし、機会を提供する以外の何ものでもないことに留意しなければならない。

会員がクラブの行事に参加することによって、同僚からの信頼を得たり、この事業上の資産を基本にして、満足すべき商品や正しい価格やサービス

と組み合わせれば、この機会は満足すべき結果を産むに違いない。ロータリアン同士の取引は、ロータリーの義務ではないし、ロータリーの本質でもないし、ロータリーの存在理由でもない。単なる付け足しに過ぎないのである。

理念の側面から見れば、ロータリー活動とは事業に於ける高い倫理基準と正しい経営方法を会員に提供することである。ロータリーにおいて理念は単なる夢の切望ではなく、会員の日常生活の規範でなければならない。事業生活を律すると同時に、個人生活をも律するものでなければならない。ロータリーの理念は職業倫理全般に対応すると同時に、いわゆる「奉仕」と呼ばれる様々な要素全体を包含しているのである。

会員の事業上の理念と実践は、「Service, Not Self」「He Profits Most Who Serve Best」というロータリーのスローガンで表されている。

個々の会員自身と個々の会員の事業にも関わる、このようなロータリー

活動は、すべてロータリーの創設者が考え出し、後継者たちがその考えを継承してきたものである。

ロータリーの理念に基づいたインスピレーションから導き出される別のロータリー活動は、「ロータリーの理念の適用」として区別される。ロータリーにおいて開発され教育された人は、生きている価値を後世に残すような、何か価値あることをしようという願望が湧いてくる。会員の教育がうまく行われれば、あたかも昼の後に夜が続くように、「ロータリーの活動」が起こるのである。ロータリーの真髄は、「ロータリーの理念の適用」として奉仕が行われるところにある。ロータリーは二つの明確な奉仕分野を会員に提供しているのである。

会員の属する業界全体の向上

ロータリアンはそれぞれの職業に対してロータリーから選ばれた代表で

ある。業界に於けるロータリーの取引に、職業倫理と奉仕を適用することができれば、会員の属する業界全体を向上させることができる。ロータリークラブの会員がロータリー精神に満ち溢れ、自らの事業をロータリーの理念に従って実践したとしても、ロータリーに属していない他の同業者に影響を及ぼさない限り、ロータリーの義務から免れるわけにはいかない。すべてのロータリアンは、このような方法で、奉仕の義務を果たさなければならず、この方法によってのみ業界全体に影響を及ぼすことができるのである。

会員の属する家庭、町、州、国、社会全体の向上

これらの向上を達成しようとするロータリアンの活動は、当然のことながら、市民生活とチャリティという一つの主な取り組みに分類されてくる。ロータリーの世界は、それぞれの会員を、より良い市民、より良い商工会

議所の会員、より忠誠なアメリカ人や英国人やカナダ人になるよう訓練するのである。地域社会に対する活動の一部始終は例会において自由に討論しなければならぬ。そして、市民生活を向上させる活動に積極的に参加するための知識や知恵を会員に提供するものは、クラブ役員の義務である。一般的には、市民生活に対するロータリアンの関心の現れは、ロータリークラブの名前における活動より、むしろ個人として、または、商工会議所の会員としての活動となるべきである。しかしながら、特定の例としては、社会奉仕のためにロータリークラブがまとまって行動することがあるが、そのような行動をとる場合には、事前に慎重な考慮をしなければならない。ロータリークラブの活動は、多くの町で見られるような、高度な専門組織の活動の重複するものであつてはならない。

いかなるクラブも、政党が意思決定を行ったような問題について、票決をしてはならない。この制限は、明らかに、クラブ内に存在する貴重な友情を守るためである。

ロータリーのチャリティ活動の分野には、どんな制限も提案も設けられていない。したがって、この分野においては、多くの形式のチャリティ活動を行うことができる。

ロータリーには、その組織特有の分野があり、その特徴は教育的効果である。他の団体と異なる点は、(1) 限定会員制度、(2) 個々の会員と個々の会員の事業に関わる活動、(3) 会員に夫々の職業上の高い職業倫理を植え付ける責任を負わせることである。

ロータリーは1905年に、学問ではなく、インスピレーションから生まれた。それ以来、ロータリーに関する多くの著述が書かれ、いくつかの先例が作られた。私たちの前には、絶えず守らなければならない重要なことが二つある。一つは、「ロータリークラブの会合では、決して酒の勢いを借りてはならない。」ことであり、二つ目の先例は、「ロータリーの会合では、卓話者は無意味な冗談を言うべきではない。」ということである。これは下品な話だけではなく、聴衆から卓話者に対して投げつけられる批判を

避けると言う二重の意味も持っている。その他にも多くの先例があるが、この二つほど強く確立されたものはない。

可能な限り、あなた自身をロータリーに与えよ。そうすればあなたはロータリーから受け取ることができる。あなたが与えた物以上の物を、ロータリーから受け取ることにはできない。

ロータリアンがなすべき仕事

出席

ロータリーには「欠席処理」などというものはない。ロータリーに選ばれた人に対して、名誉ある地位を受け容れたからには、すべてのロータリーの例会に必ず出席する義務を負うことを告げなければならない。

会員選考委員会は、

- (1) 会員候補者が事業の管理者であること。
- (2) 代表を務める事業所がその業種の指導的立場にあること。
- (3) 非難の対象となる人柄ではないこと。
- (4) 個人的な信用状態に問題がないこと。

(5) 社交性を持つていること

などを満たしている場合に、次に起こってくる重要な問題は、ロータリーアンとして関心や出席や活動の可能性如何である。

定期的な出席を果たす保証がなければ、職業分類を代表しない方が良い。ロータリーは電流が流れているクラブのようなものであって、時々電気が流れるような電線は電気が流れているとは言いがたい。欠席または不規則に出席する会員に対する退会措置は、事業上行なう厳しい措置と同様に実施すべきである。安定した会員資格はロータリークラブの大きな財産である。そして、退職や転職以外の理由で絶えず変化しているグループは、無能さを作りだす著しい弱点なのである。

ロータリアンの活動

ロータリアンの種類は一つしかない。それは積極的に活動するロータリアン、すなわち正会員 *active member* である。

個人的な活動

ロータリアンに示された第一の活動は個人的な活動である。会員は自らの事業や専門職種において、絶えずロータリアンの理想と実践という目標に留意しながら、ロータリーが教えている、高い倫理基準と多面的な奉仕を実行に移さなければならぬ。ロータリーははつきりとした向上運動である。従ってその成功は、ロータリアンが道徳律の中に述べられているロータリーの原則を、如何にして実践するか懸かっている。

ロータリアンは安心して取引のできる人であることを、世界中の人に教
えなければならぬ。すべての会員は信頼性と奉仕を示す記章として、常
にロータリーのバッジを付けているのである。

クラブの活動

ロータリアンに示された二番目の活動はクラブにおける活動である。ロ
ーター運動におけるクラブの価値は、クラブの例会に積極的に参加する
ロータリアンの割合と深い関わりを持っている。会員は例会に先立って提
起されるすべての問題について積極的に討論しなければならぬし、自ら
の事業および専門職種について話す機会が提供されなければならない。

また、昼食例会や夕食例会でも落ち着いた意見の交換が行われなければ
ならず、難しい問題に対して別な角度から解答を与えられたり、職業のま
ったく異なった人から優れた情報を提供されることも多い。

会員資格が重複しない原則のために、ロータリアン同士の話し合いは、実業家がお互いに意見の交換をするときよりも、よりうち溶け合うことができる。

業界における活動

ロータリアンに示された三番目の活動は、自らの職業分類の他の人たちに対して、高い職業倫理の基準と奉仕理念のより包括的な考え方を伝えることである。すべての業界は、国や州や地方の組織を持っている。ロータリアンは、これらの組織の例会に出席して、ロータリーがその業界へ派遣した大使としての役割を果たさなければならない。組織としてのロータリーは、業界の組織に対して、もっと良心的にとか、もっと高い倫理基準をとかと促すわけにはいかないが、ロータリアンは、このような組織の大会

の審議に参加することによつて、これに出席している者に対して、事業運営に対する高邁な理想を考える十分な機会を与えることができる。

市民および慈善的奉仕活動

ロータリーは、会員をより良き市民に、自らの業界のより良き会員になるように訓練するので、ロータリアンはその地方や市民や業界や慈善団体において積極的に活動しなければならぬ。

利益

自分の事業をより価値あるものにする活動、クラブにおける活動、同業者組織における活動、市民や慈善団体における活動の成果として、人はどのような利益を期待しているのだろうか。自分が得る利益は、経費と販

売価格の間に生じた顕微鏡で見るとような些細なものではない。利益とは、すべてのロータリアンが、より良く、より大きな人間となり、自分自身や同僚のロータリアンや世界全体に対して、より大きな奉仕を提供する機会が与えられることである。

「Service, Not Self」

「He Profits Most Who Serves Best」

ロータリークラブの会員を 真のロータリアンに進化させる

ロータリーは人間の外観を作るのではなく、人間の内面を作る。

人は、ロータリーの中で成長することによって、素晴らしいロータリア

ンになっていく。そして、この成長ぶりはナザニエル・ホーソーンの素晴らしい話、「大きな人面岩」に例えることができる。

この話は、自然のなせる技か、それとも自然のいたずらか、人間の荘厳な顔つきの特徴によく似た巨大な岩が点在する、広々とした谷についての物語である。「大きな人面岩」と呼ばれるその岩を遠くから見ると、神様のように見え、その表情は高貴で気品に溢れ、その上、親切な同情心と兄弟愛に満ち溢れ、全人類を包み込むような大きな暖かい心を持っているようにさえ見えた。

将来、その近辺に、その時代における最も偉大で高貴な人物になる運命を持った子供が生まれ、その男らしい容貌は、「大きな人面岩」とそっくりであるというインディアンの伝説があった。その伝説は何年間も住民の間に語り継がれてきたが、アーネストという名前の村の少年は、その話に深い感銘を覚えていた。その予言は彼の心の中に絶えず留まり、その日の仕

事が終わると、何時間もの間その大きな人面岩を見つめて、他の人々が気付かないような多くの事柄を発見した。人面岩は彼の教師となり、彼のインスピレーションの源になった。彼は毎日瞑想にふけることによって心を培い、人面岩の素晴らしい両目から発する精神性と感情に酔いしれた。

長く言い伝えられてきた、偉大な人が現れるという噂は何回も起こったが、いずれの人も偉大で高貴な人面岩ほどの人物ではないという理由で忘れ去られるのを見て、アーネストは悲しかった。

アーネストは、自らを磨き上げて、生まれ故郷の村で教師になった。彼は真実を語り、彼の声を聞いた人々は、それを生活の糧にした。この謙虚な男の営みによって、日一日と、世界は良くなっていった。彼は年老いていった。賢者の考え方が、彼の唇を通じて語り続けられ、彼自身と彼の村の名前を世間に広めた。有名人たちが彼に会って話を聞くために遠方から

やつて来た。

新しい詩人が現れて、人面岩の詩を書き、まさしくこれこそ莊嚴と優しさの典型だと賞賛した。アーネストはこの詩人をもてなして、一日中話し合った。日没になると、アーネストはいつものように、近所人たちを集めて説教を行った。彼の言葉は、善行と気高い愛に満ち溢れた人生そのものの言葉であった。その言葉は力強く、彼の考え方と一致していた。彼の日常生活と調和していたので、彼の考え方には現実性と深みがあった。

アーネストが大勢の人々の前に立っているのを見るのは印象的であった。遠く彼方には、はつきりと沈みかけた太陽の金色の光の中に、人面岩が姿を表し、その周りに漂う灰色の霧は、アーネストの眉にかかる白髪のようにであった。それはあたかも、世界を暖かく包み込む偉大なる聖者のように見えた。まさにその瞬間、彼が説こうとした考え方と一致して、アーネス

トの顔が、慈悲に満ち溢れた顔つきになったので、詩人は、その衝動に耐え切れなくなつて、両手を高く上げながら叫んだ。

「よく見なさい。アーネスト自身がすばらしい人面岩そっくりだ。」

全員がそれを見て、それが真実であることを認めた。アーネストはゆつくりと家へ向かつて歩きながら、やがて、自分よりもさらに賢明で素晴らしい男が現れて、その人が人面岩そっくりであることを念じていた。

人がどのような人生を歩み、どのような考え方をしてきたかが、その人の顔つきに現れることは、疑う余地はない。アーネストがすばらしい人面岩を探求した方法に従つて、人々がロータリーの中で成長していくことも疑う余地はない。ロータリアンは物を考える人であることは間違いない。彼らは、思慮深く多面的にロータリーを考え、他の人々が見つけることが

できないものを見つけないければならない。ロータリーには、アーネストのような学究的で反射的に人によって発見されなければならない、多くの素晴らしいアイデアがある。この話の中のアーネストのように、ロータリアンの顔つきが成長すれば、ロータリーはベニヤ板ではなく、彼らの精神を反映したものに成長するのである。

ロータリアン誌、各クラブの出版物、国際ロータリークラブ連合会の定款、ロータリー道德律、ロータリー宣言は、真のロータリアンになろうとする人たちのために提供されたロータリーの文献である。勞せずして、このように広い親睦に没頭し、事業生活の理論を吸収することは不可能である。

ロータリーをじっと見つめよう。事業に対する考え方の真髓を求めて研究しよう。我々の生活を奉仕の戦いの緊張に、我々の心を普遍的な親睦に

適応させよう。そうすれば、皆は「見てご覧、この人たちこそが真のロータリアンだ。」と叫ぶに違いない。そしてこの物語のアーネストのように、ロータリアンたちはゆっくりと家へ向かって歩くに違いない。やがて、自分よりもさらに賢明で素晴らしい男が現れて、その人がもつとロータリアンの名にふさわしいことを念じながら。

ロータリークラブの 各会員に対する義務と責任

ロータリークラブは偉大な国際的な目的を達成するための、唯一の地方組織である。クラブは、頻繁に在庫品(クラブ会員)の調査を行い、どのようになれば彼らが国際的な理念を身に付けるかを考えなければならぬ。

最初に調査することは、ロータリーの例会で起こる様々な活動の相対的価値に関することである。ロータリーが発足した時点では、定められた形の活動はなかった。その結果、幾つかのクラブの活動には、ロータリーの厳しい基準には合格しないものも存在した。一般的な方法でクラブ活動を調査して、何かを見つけたしてみよう。

ロータリーの素晴らしい親睦が、ロータリーのすべてを表すものだとしばしば誤解される。同様に、固い友情の確立こそが、唯一の存在理由だと考えているクラブも見受けられる。しかし、これらの二つの考え方には、

明らかに批判の余地がある。

素晴らしい親睦は、ロータリーのすべてとかロータリーの究極の目的ではなく、ロータリーという植物が根付いて、成長するための最良の土壌に過ぎないのである。素晴らしい親睦は、以下の事柄で証明される。

1. 心がこもった握手。
2. ファースト・ネームで呼び合う付き合い。
3. 唱歌。
4. ある種の冗談。
5. 会員相互の親切。
6. 役員、同僚、ゲストに対する礼儀正しい行動。
7. 成熟した実業家を象徴する紳士的態度と思慮深さ。

これらの行為やこれらに類する行為は、ロータリーの素晴らしい親睦の

表れである。

ロータリーの例会で、プログラムにふさわしい心のこもったレセプションが行われているのに、幾つかのクラブにおいて会員が絶えず変化しているのは、例会に出る価値がないからだという事実を、クラブ役員は自覚しなければならぬ。

娯楽的な催しよりも、教育的または実務的な催しをすることが望ましい。ロータリアンたちは、ロータリーが実践する活動の大きさに比べて、与えられた時間が余りにも少ないので、時間の配分という点では、仕事にはより多くの時間を、遊びにはなるべく少ない時間を割こうとしている。

クラブ例会においては、仕事と遊びははっきりと区別されているので、会員は進行中の議事に疑問を抱くことはないはずである。もちろん、旅行や演奏会や婦人の夕べなどのような楽しみのために特別に設けられた例会は適切なものといえる。

「冗談」という言葉には娯楽的要素が含まれている。一般的に、出席を

とるために名前を呼んだり、交友関係を深めたり、出席を向上させたり、何事によらず気分を高揚させようとするときには、この「冗談」はすべてのクラブで喜ばれる。しかしながら、空虚な馬鹿騒ぎの冗談や、こじつけた駄洒落の冗談は、ロータリーの活動とは無関係なものである。

一般的な活動について考えたので、私たちはこれから、「どのようにしたら、昼食例会や夕食例会を、個々の会員と個々の会員の事業を改善するのに最大限活用できるか。」という質問に対する回答を準備しなければならぬ。

ロータリーの綱領に述べられていることを効果的に実行し、クラブを国際レベルに達する責任は、各クラブの会長にかかっている。

クラブの理事が無関心であるとか、クラブの委員が積極的ではないという事実によって、この責任を免れることはできない。

昼食例会と夕食例会のためのプログラムはエンターテインメント委員会によって準備されるが、クラブが成功しようと思えば、知己と友情を促進

する親睦委員会や、公共の福祉に関する問題に関心を持った公共問題委員会が、この企画に参加する必要がある。

プログラムを計画するには、まず、昼食例会や夕食例会の時間の配分をよく考えて、より重要な活動を最優先すべきである。これらの例会に、できるだけ多くの会員が参加できれば、個々の会員にとって最善であることとは言うまでもない。

エンターテインメント委員会はその年度のスケジュールを作成した後に、それを会長と理事会に提示しなければならない。理事会は、これが重要な案件であると考えた上で、審議しなければならない。

昼食例会

昼食時間の前半は、通常、食事と親睦に専念すべきなので、年間52回の毎週の例会のうち、より重要な活動を実行する時間はたったの26時間

しか残されていないことになる。この理由によって、毎分毎分は高い価値を持っていて、私たちは時間を無駄に費やしてはならない。議長の槌を叩く音は、遊びの時間から、仕事の時間への転換を示しているのである。

26時間の昼食会に引き続いて、これらの行事を行わなければならない第一の理由は、会員の才能と力量の可能性を見つけたさなければならぬからである。これらの目的を達成しようとして卓話のプログラムを準備する場合、この作業には二つの異なった側面があるので、慎重に考えなければならぬ。

1. 会員またはゲスト・スピーカーによる事業に関する卓話。

2. ロータリーの習慣についての勉強。これは、ほとんどの場合、

ロータリー理論委員会(ロータリー・ラウンド・テーブルの名前の方が更に適切)などの特別委員会によって企画される。

会員自身の事業に関する卓話を聞く機会は、多く人たちにとってロータリーの会員に与えられる最もすばらしい特権の一つだと見なされている。会員の卓話者は、競争相手の存在によって心をかき乱されることなく、気さくにどんなことでも話すことができるし、遠慮なく正直に話すことができる。教師として皆の前に立っているものであって、この機会を与えられたことを事業家の立場で強調し過ぎてはならない。

第二の側面であるロータリーの勉強について考えると、少なくとも6週間に一回は、ロータリーを鼓舞する話をする特別な昼食例会にすべきである。近隣クラブとの卓話者の交換は、ロータリーの原理を追求し検証する上で、驚くべき効果を發揮する。

個々の会員の教育に当たって、議長を交代制にしたり、即興の討論会を開くと、会員の自信をつけることができる。このような方法によって、多くの恥かしがり屋で、遠慮がちで、内気な人が、その殻を破って人々のリーダーとなるのである。

26時間の昼食会に引き続いて、これらの行事を行なわなければならない二番目の理由は、次の点を追求するために努力しなければならないからである。

1. 会員の心の中に、最高の倫理基準を確立させること。例会においてロータリーの道徳律を、コメントを付けるか付けないかにかかわらず繰り返し読むことは、この目的を達成する最も良い方法だと思われる。

2. 奉仕の扉を開くこと。「ロータリアンとは奉仕能力を高めることを切望している人のことである。」ロータリーの原理を吸収することによって、奉仕能力が備わるだけではなく、奉仕をしたいという意欲が生まれてくる。奉仕とは、単に裏口に品物を届けるようなことを意味するのではない。ロータリアンが意味する奉仕とは、心の過程、す

なわち、人と物との活動に関連する心の状態のことである。この素晴らしい奉仕という言葉の中に、毎日新しい意味を書き加えていかなければならないのである。

弁護士、医師、歯科医師、広告製作者などのような特定のロータリアンにとって、彼らが行う奉仕は単に個人差があるだけなので、ロータリーの奉仕をすることはさして困難ではない。しかし、数名から、数百名の従業員がいる事業や専門職種の奉仕はどうであろうか。そのような場合、ロータリアンは、奉仕のウイルスを、たとえ電話係りの従業員であつても見落とすことなく、同僚や従業員全員に組織的に植え付けなければならないし、ウイルスを植え付けた後でも確信が持てるまでフォローしなければならないのである。

26時間の昼食会に引き続いて、これらの行事を行わなければならない三番目の理由は、クラブ会員であることによつて提供される機会を通じて、

会員の事業を援助するためん努力しなければならないからである。

クラブが教育のために存在しているか、人間性を高めるために存在しているのか、それとも健康を増進させるためなのか、社会的な目的のために組織化されているのかに関係なく、取引を増やす機会は、クラブ・ライフの結果起こる出来事に過ぎない。完璧なロータリアンならば、同僚であるからという理由でお互いに取引をしなければならないという原則に賛同する人はいないだろう。

業界は信用によって成り立っている。信用が高ければ高いほど、事業上の取引の影響は広がっていく。この事実を見れば、お互いの信頼と清廉に基づいた信用によって作られた強い友情を築き上げることが奨励する組織こそが、将来の事業を発展させるための基盤となるのである。

ほとんどのクラブでは、会員がお互いに取引をするのは、自然の流れである。ロータリーが他のクラブを越えて提供する特別の利点は、昼食例会や夕食例会で、知り合いや友情の種を播いて、これが成長して、よりすば

やく実を結ぶ機会を与えることである。

ロータリー安間の取引は、販売の技術よりむしろ信用と友情の結果であり、販売促進よりむしろ奉仕の結果なのである。

夕刻の例会

夕刻の例会は、昼食例会より長い時間がとれるので、個々の会員の向上と個々の会員の事業の向上を達成するための大きな機会を提供してくれる。

一般的に、夕刻のプログラムは、よく選択された素晴らしい話を中心にして構成されるべきである。夕刻の例会にふさわしい数多くのプログラムを研究した結果、次のことが判明した。通常、婦人の夕べは12月に行われるためクリスマス素晴らしいコーラスに参加したり、同時に行われる素晴らしい慈善活動事業の一部ともなる。

秋の最初の例会やロータリー設立記念日に近い例会は、通常、ロータリー

アンによる討議が行われる。

その他の夕刻の例会はそんなにはつきりとした特徴はないが、一般的なプログラムとして、(a) 近隣都市のクラブからの訪問、(b) 事業の実績に関する話題、(c) 事務機器やファッションに関する話題、(d) あらゆる種類の公共問題の検討、(e) 都市の建築問題、(f) 祝祭日の記念祝典などが重要視されているようである。

ほとんどのクラブのビジネス・セッションは、夕食の直後の夜の例会で行われる。夕食の時間に事業の詳細を知らせることで節約された時間は、効率を図ることと儀礼のために失われた時間でもある。

ロータリーが実業家の議会のようなものであることに留意すれば、例会のこの部分は迅速に事務処理して、個々に提案されたすべての問題を正式な議事として採用して、慎重に審議しなければならない。

新入会員の紹介は夜の例会で行うのが最も良いと思われる。クラブ会長はこの新入会員にロータリーの話をするのが習慣になっている。

ロータリーのスローガンである奉仕を行う場合は、例会に参加するすべての人の時間を価値あるものにしなければならない。

夜の例会は、ロータリアンが高い見地に立って、自分の事業、自分の業界、自分の家庭、自分の町や州や国に対して優れた奉仕をしなければならぬという固い決意を抱いて、散会しなければならぬ。

自分の業界と社会に対する ロータリアンの義務と責任

ロータリーは人間として次の信念を表明することである。

1. 自分自身と自分が達成したいと望んでいる理念。
2. 自分の職業の価値と自分の職業の有用性を広げる義務。
3. 自分の業界に負っている義務。
4. 自分の家庭、町、州、国に負っている義務。

この信念に基づいて、ロータリーの様々な活動を思いつき、それを実行するのである。個々の会員と会員の事業の向上に関する諸活動は、すべての「ロータリーの基本」を構成する活動である。この二つを向上する責任

は、クラブ役員にある。

ロータリーの基本を十分に行うと、それに引き続いて他のクラブ活動が生じてくる。我々はこれを「ロータリーの応用」と呼んで区別している。

この章は「ロータリーの応用」または「ロータリーの活動」について述べたものである。「ロータリーの応用」を実践することによって向上する責任は、個々の会員にある。

自分の業界に対する会員の義務と責任

ロータリアンはロータリーから各種の業界に派遣した代表であり、業界からロータリーに派遣した代表ではない。この解釈の下では、各々の会員はロータリーから派遣された、原則や理念の代表者、すなわちメッセンジャーであり、利他主義の精神と職業倫理基準を同業者に伝えなければならぬ。同様にロータリアンは、ロータリーの代表として、自分の業界にお

ける低い次元の考え方や疑わしい商習慣を終わらせるために活動する責任を担っているのである。

自らの日常生活の中で、ロータリーの原則を実践に移さないロータリアンは、ロータリーの職業倫理の力強い教師になることはできない。ロータリーの道徳律の中に示されているものの、十分強調されていない点がある。それは個人と企業の信用である。ロータリーに参加することが認められた日から、多くのロータリアンからの信用による取引がその人に適用される。このような便宜と信頼の証を受け容れた以上、新入会員には個人的および事業上の負債を速やかに支払う義務が生じる。ロータリー内外双方の個人的および事業上の信用が強調されるのは、次の理由による。すなわち、もしも彼らがロータリーの信用を反映することを望むのならば、もしも同業者が参考にするような高い職業倫理を自らの業界においても信用してもらおうと思うのならば、ロータリアンは自らの負債を速やかに支払う人間でなければならぬからである。ロータリアンは安心して取引ので

きる人間でなければならぬ。それは、迅速で効率的な方法によって取引を行うことで認められた評判によるサービスの見地からではなく、正直に表示された正直な製品を提供するという品質の見地からでもなく、公正で立派な取引を行うという評判による名譽の見地からでもなく、ロータリアンは信用状態に疑いがない人間であるからという理由なのである。眞のロータリーの基準に従って判断すれば、事業生活における最良の代表者なのである。

最近、業界においては、もっと厳格でもっと心のこもった事業上の良心を持つべきであるという国民感情の大きなうねりが押し寄せているのを感じる。その結果、実業家たちは、規模の大小を問わずすべての企業が人類に奉仕していることを説く社会奉仕の原則を受け容れざるを得なくなった。この実業界の革命は、倫理と事業が融和しなければならぬという健全な教えを説いているのである。事業上の良心が急速に高まっていったことは、次のような表現が流行していることから明らかである。「信用することこ

そ、立派な客の条件」「真実と奉仕は事業を成功させること」「基本的な取引の原則に過ぎない競争」「買主注意」という古い原則に代わって「売主注意」という原則が出現したのである。商習慣の標準化の前触れとして述べられた感情は、実業家の一般大衆や同業者に対する態度が大きく変わったことを意味する。文書による契約から、口頭による取引に変化したことに気付けば、あらゆる分野の事業のための商習慣の標準化が、今日、是非とも必要になってくるのである。電話はこのような変化を起こした大きな原因であるが、このような商習慣の標準化の継続は、高く立派な取引上の倫理基準が、特に証拠書類が残らない取引引きにおいて維持できるか否かにかかっているのである。

アメリカにおいて正しい倫理基準を作る最初の正式な活動は、広告クラブ連合会によって行われた。この全国的な活動は、クリーブランド不動産組合などの幾つかの地元の企業を同様に奮い立たせた。

倫理基準を起草する作業は、様々な事業や専門職種の国や州単位の組織

が行うべきだが、過去の経験によれば、これらの組織の行動は極めて遅いのである。したがって、この分野において、ロータリーが奉仕を實踐することが可能となる。道徳律起草の草分け的な作業をすることは、ロータリーの特権でもあり義務でもある。年次大会では、それぞれの業界の分科会において、正しい商習慣の道徳律を作らなければならない。このような作業の結果は、基本的には結論としては受け容れがたいとしても、おそらく多くの全国的または州の組織からは受け容れられるに違いない。

職業倫理訓には次の事柄を加えなければならない。

1. すべての事業または専門職種に等しく適用されている職業倫理の一般的な規則。
2. 事業または専門職種の会員資格に関する定義。
3. 会員相互関係に関する声明文。

4. 一般消費者との関係に関する声明文。
5. 特別な仕様を取り決めた契約書の作成と実施に関する規約。
6. 非難すべき慣習の禁止。

各々のロータリアンはロータリーから自分の事業または専門職種に送られた大使なので、そのような事業または専門職種の地方や州や国の組織に所属することは、ロータリアンとしての義務である。

- 一 職業倫理の高い理念を表明した人の考えを支持し、指導すること。
- 二 同業者への奉仕を奨励すること。
- 三 アイデアや経営方法の交換によって、事業の効率を高めること。
- 四 自らが属する職種の地位を高めるように努力すること。
- 五 個々および全体の利益のために、同業者と協力すること。

会員の社会に対する義務と責任

ロータリーの原則と慣例に基づいて教育をすれば、社会に負っている奉仕の負債を返すために、何かをやりたくなくなる。

ロータリアンは先ず教育を受けた後に、その教育の結果を個人的な進歩と他人のための活動で示すことが期待されているので、ロータリーにおいて名誉会員の存在を正当化することは困難である。特に居住者でない者やその町の一次的な居住者や、一定期間公務についている人を名誉会員にすることは避けたい。規則正しく出席できない人やロータリーにおいて積極的に活動できない人は、ロータリアンにとって不可欠な二つの大切な要素を欠いていることになる。

ロータリーにおける名誉会員は、ロータリーの基本原理に矛盾するものであり、ロータリーにおいて積極的に活動する会員の価値を減少させる。もしも、名誉会員を認めるための抜け道があるとすれば、新入会員の入会

に関する会員選考委員会の厳格な審査は空しいものとなる。

社会は、家族関係を持った家庭に始まり、町や州や国、世界と広がっていく。ロータリーが他人のために何かをしようとするとき、人間を奮い立たせるとき、その人にとって最良の活動の場は家庭である。家族から祝福されて、良いロータリアンになろうとする人は、妻や子供たちに誠実であるに違いない。もしも独身ならば、母親に対する義務は、母親が彼に夢見た理想的な男性にふさわしい生活をすべきである。これまでも兄弟愛から生じた人類の幸福が、家庭の中に存在していた。ロータリーはこの兄弟愛を、実業の世界に広げようとしているのである。浮気な夫や放蕩者は兄弟愛を広げることができないのである。ロータリアンが彼らの住む町や州や国に対して負う義務と責任を簡単に述べれば、「善良な市民になれ」ということである。

環境に関する知識が増加するにつれて、地元に対する愛情が強くなるので、クラブは会員に対して次の知識を与えなければならない。

(a) 町の地理、(b) 地域社会の生活、(c) 街の産業活動、(d) 沿岸部および外国との貿易、(e) 貨物や乗客、交通の諸問題、(f) 公園や街路、(g) 総合的な都市計画、(h) 消防、警察、健康、公共事業等の自治体行政、(i) 都市の歴史。

ロータリアンは自分が住んでいる都市に関する適切な知識、福祉に関する強い関心、その都市の生活や歴史に対する愛着を持たなければならない。自分が住んでいる都市の市民としての熱意は、慈善、博愛、市民またはその他の団体の会員として活動することで示すのが最善である。ロータリアンはこれらの組織の中で、単にその義務を履行するに留まらず、さらに大きな活動を行うことができる。公共の福祉に関係する様々な団体の金払いの良さを尊敬しつつも、金をだすことに加えて、個人が行う奉仕活動にこそ大きな価値があるのである。

「ロータリアンの郷」は、会員をより良い市民、商業団体のより良い会員、それぞれが所属する都市や国に忠誠を尽くすように訓練をする場である。

市民としてのロータリアンの関心の現れは、ロータリークラブの名前をかかげて行う団体活動よりも、むしろ、個人やいろいろな商業団体や市民組織の会員の活動として行うべきである。

地元や全般的な事柄に対するロータリアンの個人的な関心は、その活動に直接結びついているため、この原則を忘れることが余りにも多い。

地元の問題に対しては精一杯注意を払って処理しなければならず、公共問題については軽率に決議することは好ましくない。中途半端な決議を新聞やその他の手段を通じて一般大衆に伝えると、しばしば有益な提案に深刻なダメージを与えたり、一般大衆にメリツトのない提案を支持するような機運を作りだすことさえある。各政党が結論をだしたような問題について、クラブはこれを問題として取り上げてはならない。公共性を持つ問題について、地域社会の市民の意見が分かれないうようなものはほとんどないので、異なった意見がクラブ内に存在するのも当然である。特定の話題や運動が一党一派に偏らないという結論に達したという事実は、必ずしも、

その事実が確定したというわけではない。家庭環境、教育、所属団体などの影響が、私たちの考え方の前提となっている。討論の対象が、当事者の目から見れば政治とはかけ離れているように思われても、もし一般大衆が政治問題だと考えれば、一党一派に属さない実業家の議会であるロータリーの名声は損なわれることになる。会員がクラブに提案するすべての案件は、審議をするために担当委員会と理事会に提出しなければならない。審議を終えた後、理事会はその提案がクラブで行動をとるにふさわしい問題だと決定した場合、次週の例会で会員に提案しなければならない。

各クラブは、火災予防、教育活動、森林・河川保護、公衆衛生に類する諸問題について、適切と思われる行動を取ることが認められている。広範なまたは一般的に関心の高いプロジェクトを承認したり推進したりする場合、そのような活動がロータリー一般、国際ロータリー、他のロータリークラブに対してどのような効果を及ぼすのかについて考えなければならぬ。いくつかクラブが取り上げた話題には、ロータリー一般や国際ロータ

リーとしては恥ずかしいと思われるものもあつたし、クラブが出した結論の中には、配慮を欠いたり、慎重な効果を考えないものも数多く含まれていた。国際ロータリーが国家的または内部的な問題に関わつてはならないことは明らかである。個々のクラブの地元や内部や国家的な問題について関心を持った場合でも、ロータリークラブは地区内で同様の影響を受ける他のすべてのクラブからの了承を受けなければ、地本の関心を越えるような問題を進めてはならない。あるクラブが、他のクラブに対して、内部的な問題、時には純然たる地元の問題について決議を行うように求めることがあるが、このような習慣はしばしばクラブの間の誤解を生じる。

ロータリーの小さい義務を果たそう、そうすればロータリーの歯車は完全に滑らかに回る。

ロータリー宣言

現代生活における取引上の基準が、人類進化の必要条件であることを認めて、ロータリークラブは社会を構成する個人の利益の融和と、個人の利益との間の適切な関係を示すために作られた。

より効果的にこの目的を達成するために、制限制、代表制の会員制度が採用され、ロータリークラブは事業または専門職種の各分野から一名の代表によって構成されている。各会員は、異なった職業に従事している代表者と接触することによって利益を受け、その結果、市民生活と職業生活の責任をより知的に満たすことができる。

クラブの会員制度の基本は、事業に関連する公共の問題を考慮するに当たって、全体の利害関係を代表し、特定の人の優位を保障するものではない。ロータリークラブは限定会員制度を取っているので、一般的に重要な

問題については、全体の地域社会の声を反映したものではないが、そのような問題に対する活動は地域社会における市民や事業の福祉を進めるに当たって、かなりの影響を及ぼす。

ロータリークラブは事業上の公正な取り引き、正直な方法、高い倫理基準を要求している。ロータリーにおいては、事業上に影響を及ぼすような現実的、または、暗示的な義務は存在しない。ロータリーの会員として選ばれたことは、選ばれた会員に対する、クラブの信用と当人に対する好意の表れである。当人の事業を通じて、当人自身を表現しているのであるから、積極的に代表することが期待される。

ロータリークラブにおける会員資格は、特権であると同時に機会でもある。そして、その責任は同僚に対して正直で効率的な奉仕をすることと、思慮深く接することである。

奉仕はすべての事業の基本である。

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。

全分野の職業人のためのロータリー倫理訓

1915年7月19―23日、サンフランシスコにおける第6回国際ロータリークラブ連合会年次大会において採択

この職業倫理基準は、我々の共通な人間性に基づく思いやりを心に留めるものである。職業上の取引や野望や諸関係は、常に社会の一員として自分が果たす最高の義務を考慮すべきである。職業生活のあらゆる場面において、また、自分が直面するすべての責任において、先ず最初に考えなくてはならないことは、その双方を終えたときに始めて果たされる責任と義務を満たすことである。人間の理念と業績の水準を、当初よりも少しでも高めなければならないし、このことを考えることこそ、ロータリアンとしての私の義務である。

この見地から、本委員会は、国際ロータリーの職業倫理訓の基本は、次の原則に従うことに同意する。

第1条 自分の職業は価値あるものであり、社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えること。

第2条 自己改善を図り、実力を培い、奉仕を広げること。それによつて、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というロータリーの基本原則を実証すること。

第3条 自分は企業経営者であるが故、成功したいという大志を抱いていることを自覚すること。しかし、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかない成功は、まったく望まないことを自覚すること。

第4条 自分の商品、自分のサービス、自分のアイディアを金銭と交換することは、すべての関係者がその交換によって利益を受け
る場合に限って、合法的かつ道徳的であると考えること。

第5条 自分が従事している職業の倫理基準を高めるために最善を
尽くすこと。そして、自分の仕事のやり方が、賢明であり、利
益をもたらすものであり、自分の実例に倣うことが幸福をもた
らすことを、他の同業者に悟らせること。

第6条 自分の同業者よりも同等またはそれに優る完全なサービス
をすることを心がけて、事業を行うこと。やり方に疑いがある
場合は、負担や義務の厳密な範囲を越えて、サービスを付け加
えること。

第7条 専門職種または企業経営者の最も大きい財産の一つこそ、友人であり、友情を通じて得られたものこそ、卓越した倫理にかなった正当なものであることを理解すること。

第8条 真の友人はお互いに何も要求するものではない。利益のために友人関係の信頼を濫用することは、ロータリーの精神に相容れず、道徳律を冒瀆するものであると考えること。

第9条 社会秩序の上で、他の人たちが絶対に否定するような機会を不正に利用することによって、非合法的または非道徳的な個人的成功を確保することを考えてはならない。物質的成功を達成するために、他の人たちが道徳的に疑わしいという理由から採らないような、有利な機会を利用しないこと。

第10条 私は人間社会の他のすべての人以上に、同僚であるロータリーアンに義務を負うべきではない。ロータリーの神髄は競争ではなくて協力にあるからである。ロータリーのような機関は、決して狭い視野を持つてはならず、人権はロータリークラブのみに限定されるものではなく、人類そのものとして深く広く存在するものであることを、ロータリアンは断言する。さらに、ロータリーは、これらの高い目標に向かって、すべての人やすべての組織を教育するために、存在するのである。

第11条 最後に、「すべて人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」という黄金律の普遍性を信じ、我々が、すべての人にこの地球上の天然資源を機会均等に分け与えられた時に、社会が最もよく保たれることを主張するものである。

要約

倫理訓の目的個人の完成を基礎として、国家の永続は単に自我を保存するためであるというギリシア的な倫理訓の目的ではなく、この倫理訓は愛を述べたものである。ロータリアンは単に自我を保存することだけが正しいのではなく、他人を滅ぼすよりはむしろ滅ぼされる方を選ぶ。この道徳律は愛に基づいて作られている。

倫理訓の価値この倫理訓は保守派と革新派の間にある論争のどちらか一方の側につくものではない。それは、単に、保守的であるから、または革新的であるからという論争には何のかわりもない。

この倫理訓が探し求めるものは唯一つ、この倫理訓が述べている実用的な価値である。この倫理訓の実用性は保守主義や革新主義ではなく、これを起草した人の理念なのである。この実用性こそが重要なのである。

ロータリークラブ

一週間に一回、昼食会か夕食会を開催する。

地域社会における各々の事業と専門職務から一名の積極的な代表者を選んで会員を構成するという独特な形式を取っている。

綱領

すべての合法的職業は尊重されるべきであるという認識を深め、各会員の職業を社会に対する奉仕の機会を提供するものとして品位あらしめるところ

事業および専門職務の道徳的水準を高めるよう奨励すること

構想や事業運営方法の開発によって各会員の能率を増進すること

同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起こすよう会員を鼓舞すること

奉仕の一つの機会として、また成功への道として、情理ある交友関係を推進すること

クラブの地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、社会、商工業の発展のために他の人々と協力すること

特典

あなたが巡り合うべき知り合いを作る。

純粹で健全な良い親睦。

眞実で役立つ友人の開発。

他の人々の仕事、問題、成功に関する啓蒙。

効率を高める経営方法についての教育。

あなたの同僚や社会一般に対して奉仕しようというあなたの願望を促進。

知り合いを広め、あなたとあなたの事業に信用を抱かせる結果もたらされる事業上のみかえり。

義 務

定期的な例会に出席すること。

遅れることなく会費を支払うこと。

求めに応じて、本分を尽くすこと。

大きな心、寛大な心を持ち、エネルギーと行動力のある人間、真の人間、ロータリアンであること。

電子文庫版「ロータリーの心得」について

「A Talking Knowledge of Rotary」は1916年ロータリー誌の4月号から7月号にわたり掲載されました。これはロータリーの教科書としてガイ・ガンデカー（Guy Gundaker）によって書かれた、ロータリーの理想とその活動をはじめて包括的に述べたものです。

ガイ・ガンデカー（Guy Gundaker）は、1923—24年度RI会長。アメリカ・フィラデルフィアRC会員であり、ポール・ハリスの親しい友人でもありました。

1923年9月1日、日本は関東大震災に見舞われましたが、当時RI会長だった彼は直ちに、励ましの電報と支援金2万5,000ドルを、被害に遭わなかった大阪RCを經由して送っています。

「ロータリーの心得」はこの「A Talking Knowledge of Rotary」を田中毅DPGによつて翻訳されたものです。A5製本版として田中毅DPGのHP「ロータリーの源流」の「国外講演・著作集」に英文・翻訳文が収録されています。電子文庫版「ロータリーの心得」はこの翻訳文を縦書きに再編集・製本(A6版PDF)したものです。

なお同じくこの「A Talking Knowledge of Rotary」は、小堀憲助氏(田無RC)により翻訳され「ロータリー通解 ガイ・ガンデカー」として1971年に発表されています。

2007年8月

大阪南RC Y. 木村

A TALKING KNOWLEDGE OF ROTARY

by Guy Gundaker

ロータリーの心得

翻訳 田中 毅

文庫化 大阪南 RC 2007.08